

かな部

武田青山

「先達はあらまほしきことなり」兼好法師のことば。「先達」とは案内者、先導者という意味。自分勝手な思いこみ、慢心を戒めている。私達にとつての「先達」は、書物や書作品群にあたる。読むこと観ることで美的感性が養われる。線の練習について書いたが、次に、その線の墨の濃淡、色あいにについて、比較検討してください。どちらが美しいかと。来月も、力作を期待しています。

かな部 条幅課題

A 草わかば色鉛筆の赤き粉の

ちるがいとしく寝て削るなり

(北原白秋)

・緑の草わかばに、はらはらと散りこぼれる色鉛筆の赤き粉、その小さな感興をいとしんで、寝たままいつまでも削り続けることだ。

B やゝしばしけぶりをふくむやなぎ哉

(加藤暁台)

・「やなぎ」みどりのやわらかい枝をたれた柳が、流れてきた煙をしばらくとじめていたが、やがて煙も消えてもとの美しい姿にかえった、の意。

(しめきり)………三月十八日)

◎条幅出品券を作品の右下へ必ず貼付すること。

なお、作品の裏右下に段位、氏名を忘れず記入のこと。

(選評)

師範・準師範の部

貴祥君 流れよく、まとを得た秀作。

青蕙君 三行にうまくまとめた。後半の流れが特によい。

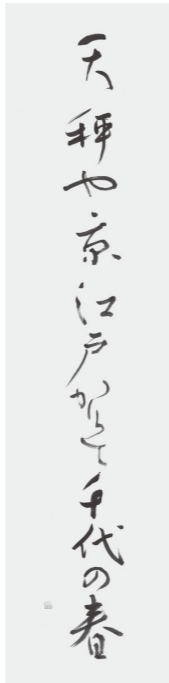
藍華君 独特の感性がある。見事。入筆に配慮すること。

麗園君 美しい墨色で、流れよく書けた。

栖麗君 俳句をうまくまとめた。字間に工夫があるとよい。

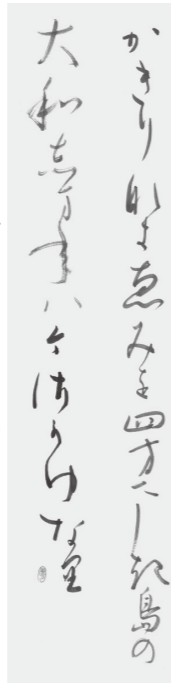
※五段以上の方はA・Bの両方同時に出品できます。

(助教以下の部)



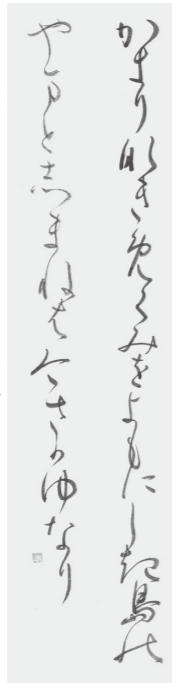
吉村花耀

俳句を一行にすっきりと書けた。墨色に注意する。



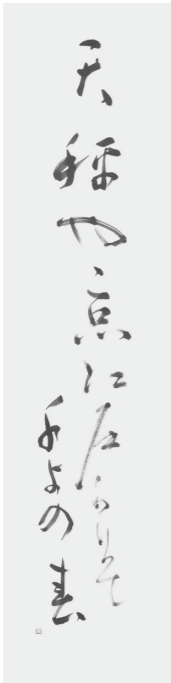
武内昇月

書き出し一字下げる。筆をゆっくり運ぶこと。



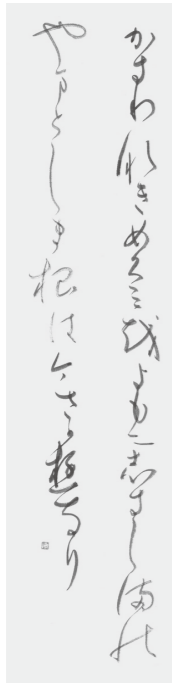
白井賀奈子

流れよく書けた。書き出し一字下げる。



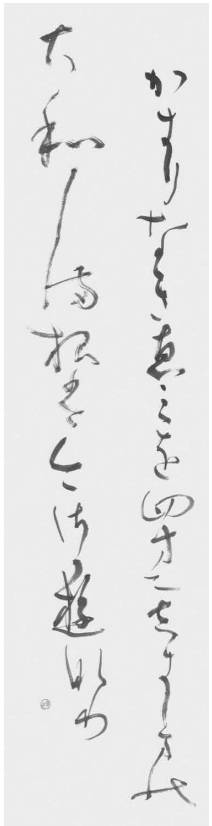
越ヶ谷好美

うまくまとめた。渴筆の部分は、筆をゆっくり運ぶ。

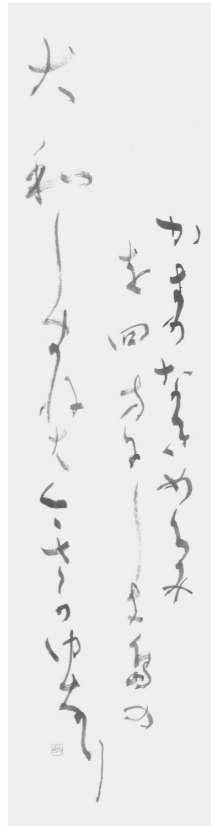


長岡東煌

すっきりと書けた。「利」一考。筆の転折をゆっくりと。



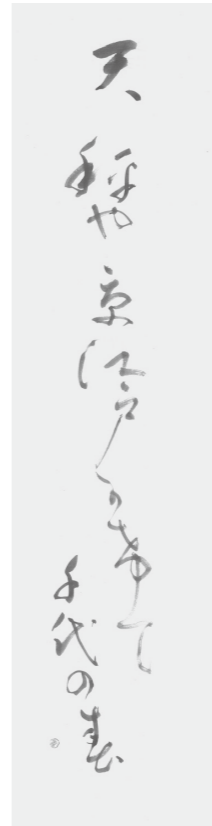
奥本貴祥



児島青蕙



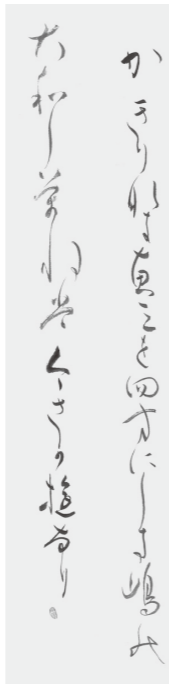
藍華



東田麗園

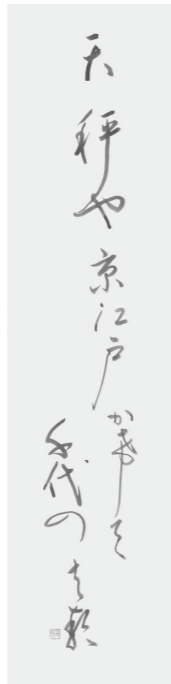


松本栖麗



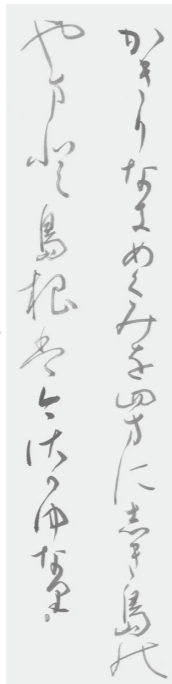
海野雨泉

やわらかく品よく書けた。線にふくらみがあるとよい。



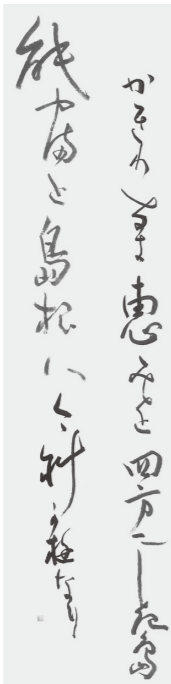
江川翠梢

俳句を品よく書けた。濃淡があるとさらさらによい。



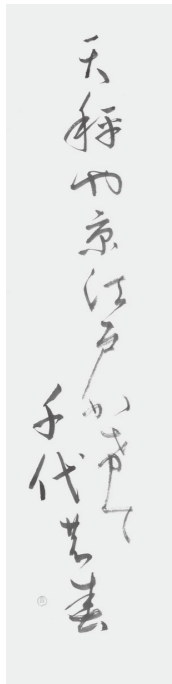
岡田清子

墨色よい。書き出し一字下げる。運筆はゆっくりと。



河上紀鳳

大胆に書いた。二行目上部がよい。今後、線質に工夫を。



西山恵祥

字の大小に工夫して、まとまりよく書けた。字の幅や大きさに工夫が欲しい。